

飛翔

第50号



社会福祉法人 鹿児島県社会福祉事業団

〒890-8517 鹿児島市鴨池新町1番7号

鹿児島県社会福祉センター4階

TEL 099-257-7667 FAX 099-259-3939

E-mail syakai-j@topaz.ocn.ne.jp

URL www.kagoshima-sw.jp



《写真提供》川内自興園 副園長兼総務課長 山本 耕一

新年を迎えて

理事長 白尾 國 豊

新年あけましておめでとうございます。
新春を迎え、皆様のご多幸とご健勝をお祈り申し上げますとともに、日頃から当事業団にお寄せいただいておりますご支援とご協力に對し心より感謝申し上げます。

さて、当事業団にとりまして平成二十七年度は、「鹿児島県社会福祉事業団経営計画」の最終年度となっておりますことから、現在新たな経営計画の策定に取り組んでいるところであります。

現計画につきましては、この三年間、計画に掲げている各般の施策、推進目標の達成に向け、精力的な取組を行ってきました。中でも、質の高い福祉サービスの提供や人材育成の為、職員研修には力を注いできましたが、職員の考える力、積極性、接遇マナーの向上等が図られてきたと感じております。

また、地域福祉の推進のため、快適に過ごせる施設整備を進めるとともに、地域のニーズに即した新規事業への取組を進めてきましたが、整備中のものを含め、三施設の改築と一施設の新築、六事業所の開設を図ることができました。この中で、平成二十八年四月一日に事業開始予定の通所リハビリ施設「リハステーションゆす」については、県内で初めての取組みとして、高次脳機能障害の方を主たる対象とした施設となっております。

新たな計画につきましては、現計画の実績を踏まえるとともに、社会福祉法人制度の大きな見直しや介護報酬の切下げ、障害福祉サービス等の報酬見直しなどの社会福祉法人を取り巻く環境の変化に適切に対応し、自律的かつ自主的な経営と質の高いサービスの提供を目指すものにして考えております。

当事業団としましては、本年もこれまでと同様、利用者の方々により安心・安全で質の高いサービスを提供するとともに、地域の皆様の様々な福祉ニーズに 대응することができるよう、その責務を果たしてまいりたいと考えておりますので、関係の皆様の一層のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、本年が皆様にとって素晴らしい一年となりますようにお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

CONTENTS

- ・～特集～川内自興園 2
- ・ねっとわーく～施設の窓から～ 4～8
- ・理事会・評議員会 10
- ・シリーズ女 12

自 興 園



今年の総選挙結果は…

川内自興園では、利用者主体の自治会組織（JKB24）があります。今年もセンター（会長）を狙って、演説・投票にて役員が決定しました。利用者の方の園内行事はこのJKB24が中心となって、企画・運営を行っています。



スプリングランチ

園内の桜を見ながら、みんなで花見を行いました。曇り空でしたが、お弁当が美味しかったです。食事の間にはJKB役員が他の利用者の方に来年度の抱負をインタビューしたりと、桜の花も一層輝いて見えました。

春 冬



新成人を祝う会

昨年は四名の利用者の方が成人を迎えられ、利用者・職員と一緒にホテルグリーンヒルにて祝賀会を行いました。激励の挨拶をいただき抱負を述べたりと、新成人としての一歩を踏み出しました。



ふれあい秋祭り

毎年秋祭りではセーリングコンサートも同時開催しています！利用者の方も一緒に歌ったり踊ったり、大盛り上がりでした。陶芸・木工のワークショップの新設コーナーも大好評でした。

チャイルドクラブ あおぞら

平成27年4月から、学校の放課後や休日に障害を持った子ども達の居場所として、川内自興園内に開所しました。送迎、体調管理、学習、運動等の他、季節に合わせた活動を積極的に取り入れています。子供達の成長には日々驚くことばかりです。



アンテナショップ営業中!

ほくさつ障害者就業・生活支援センターの事務所内に、障害者個人・団体の方々の生産物等の販売所「アンテナショップあおぞら」を営業中です。朝、野菜の搬入を待っていてくださる常連さんも増えました。より多くのご利用、お待ちしております！

3づくり運動

川内自興園では「健康づくり」「仲間づくり」「スキルづくり」の「3づくり運動」の実践を通して、働き甲斐のある職場風土づくりに努めています。10月24日に薩摩川内市商店街にてハロウィンイベントが開催され、当園の職員と、ほくさつ障害者就業・生活支援センターの職員と一緒にポップコーンを子供たちに配布しました。チャイルドクラブの子ども達も参加したりと大盛況で幕を閉じました。



クリスマス忘年会

昼はあおぞら館にて演芸会、夜は豪華会食をいただきました。園内の冬のイベントとして、利用者様も毎年楽しみにしています。JKBの役員さんもサンタの格好をして、この日は朝から進行役に大活躍でした。



毎日頑張ってます!

利用者の方がやらされる活動でなく、「やってみたい!」と思えるような活動を提供しています。木工、紙巻き作業、箱折りなどの軽作業や、共同受注センターからの除草作業の受託、きんかん狩りなど、川内自興園のサービス事業所が連携して活動提供しています。

▶ 軽作業
(紐巻き・箱折り)



◀ 陶芸での作品作り



▶ 社会貢献活動

ふれあいの塔、移設



川内自興園の正面玄関前に、中村晋也先生作「ふれあいの塔」が移設されました。

これは、川内厚生園の敷地内に建っていた作品であり、長年に渡り利用者の方の暮らしを見守ってきたものです。これからも川内自興園を温かく見守ってほしいと思います。

グループホーム定員増員

27名定員の川内ひまわりホームですが、現在満床の状態です。この1月から30名まで定員を拡大し、地域に根ざしたサービス提供を行います。



九州大会出場!

春に行われた球技大会のティールボールの部で見事優勝し、沖縄で開催された九州大会に鹿児島県代表として参加しました。結果は三位入賞。園から送られてきたたくさんの方の応援が届いたのでないでしょうか。来年こそは優勝できるように頑張ります!



夏 秋

JKB屋台村

夏空の下、今年も開催しました!バーベキューやスイカ割り、わたあめなど大満足でした。抽選会も行われ、皆さんとても盛り上がりました。



台風十五号による足あと

台風十五号の上陸により川内自興園は八月二十四日明け方三時頃からおおよそ五日間、停電が続きました。こんなに長い停電は初めてでしたが、利用者の方に不安な日々を過ごさせないように、入浴は薩摩川内市内の温泉に行き、食事は委託業者の努力もあって常食に近い形で提供することができました。災害の怖さと、電気のありがたさを改めて実感しました。



芋ほり体験

園内の畑にてチャイルドクラブあおぞらの子ども達が保護者と一緒に芋ほり体験を行いました。収穫した芋は自分達でふかして食べました。自然とふれあうことで、収穫の喜びや、生産者への感謝の気持ちを学ぶことが出来た一日でした。今後子ども達が喜べるようなイベントを計画していきます。



ねんねや〜

施設の窓から

児童養護施設 仁風学園

「食べる」から「発見」を

十月三十一日、この日の夕食は、「ハロウィンごはん」と題して、黄色い色合いの食材をふんだんに使用した食事を提供しました。子ども達からは、「おいしいね!」「これ好き!」といった声が聞かれ、とてもおいしそうなお表情を見せてくれました。

また、子ども達は、食事だけでなくこの日のメイン食材である「かぼちゃ」の栄養に



についても大変興味を持ち、「どんな働きがあるの?」といった質問が聞かれました。

子ども達がこの日の夕食を通じて、使用されている食材に興味を持ってくれたことにとっても喜びを感じるとともに、栄養士の仕事にとってもやり甲斐を感じました。

仁風学園では、この他にも、一年を通して季節感を感じられるように様々な行事食を提供しています。

日々成長する子ども達にとって、毎日の食事は非常に大切な時間であるとともに、

食事を通して食材や栄養のことなど様々な食に関することを知るきっかけになります。私や調理師も子ども達にとつて栄養バランスの良い食事を作るだけでなく、少しでも子ども達が食事に興味を持ち、食事時間が楽しくなるよう工夫しながら向上していきたいと思えます。

栄養士 松永 美鈴

婦人保護施設 錦江寮

幸福の鐘

十月六日、澄み切った秋空の下、私達錦江寮では、職員を含む六名で指宿市や南さつま市へ社会見学に出かけました。利用者の方々は久しぶりの外出とあってジャンボタクシーに乗り込む時は童心にかえった様に見えました。

目的地のひとつ知覧特攻平和会館では、戦死した一、〇三六名の若者の遺書や



遺品が展示されていました。利用者の方々は、見学しながら「本当に若い尊い命が可愛いそうだったね。」と語り合う中で優しい慈母的な一面も垣間見る事ができました。初めは固かった表情も一緒に食事をしたり、景色を眺めたりしているうちに和らいで、笑顔や笑い声もでてきました。やがて池田湖や開聞山麓を過ぎ、薩摩半島の最南端長崎鼻に到着すると、さすが南国。夏の名残で汗を拭く姿も…。指宿道の駅では、それぞれ参加できなかった利用者の方や家族への買い物を楽しんでいました。

今回の社会見学に参加し、利用者の方々と、かけがえのない経験と想い出ができて、有意義な時間を過ごすことがで



同胞保育園では、園児の突然の発熱や体調不良でお迎えまで他の園児と離して休息させたい場合や、病気の回復期にあっても集団生活を避けることを保護者が希望した場合は、病後児室で保育を行います。

**保育所 同胞保育園
病後児室**

きました。最後に訪れた、JR日本最南端の西大山駅で、幸福の鐘を鳴らしながら、私は利用者の方々の幸せが訪れますようにと、願いを込めました。その願いがいつか叶う日が来ると信じてこれからも一層の支援をしていきたいと思えます。

調理師 坂元 美枝子

回復期とはいえ、保護者も病み上がりの不安が取れていない場合の利用が多く、家庭との連絡票を活用して対応するように心掛け、園児の体調に合わせてゆっくり過ごします。

園児は常に集団の中にあるので、保育士はそれぞれの個性を知り、集団での変化を見極め、安全に楽しく過ごせるように日々努力しています。

ある日、病状や発達状況の違う複数の園児が、病後児室を利用しました。同時に預かるリスクを考えましたが、ケガをしている年少児の男の子が小さな子の手を引きお世話をしたり一緒におもちゃで遊んだりする優しい心づかい



に、小さな子も機嫌よく過ごしているのを見て、微笑ましく思い安堵しました。

初めての保育園勤務で戸惑うことも多い中、看護師として病後児室を利用する子ども達が安心して過ごせるように配慮しています。お迎えに来た保護者の手の中で見せてくれる表情を見ると、一日不安定な体調で頑張った小さな身体がやっと安らげる場所に戻れたのだと感じます。

保護者にとって病後児室は、安心して利用してもらおうための場所であるとともに、子ども達の元気が充電できる場所であればと思います。

看護師 西牟田 由美子

**保育所 鹿児島みなみ保育園
生活発表会を通して感じること**

鹿児島みなみ保育園では、一年を通して様々な行事を行っています。去る十月十一日に鹿児島県民交流センターで生活発表会が行われました。

〇歳児から年長クラスまでの園児が衣装を身にまとい、今日までの園生活で学んできたことをご家族や保育士が見守る中、大きな舞台上で発表する



私が担当している年長クラスでは、歌やお遊戯、合奏など六つの演目に取り組みました。練習を始めて間もない頃は、一人ひとりの集中力や意欲、気持ちの方向性がバラバラでなかなか思うように練習が進まない日々でした。しかし、励まし合いながら、繰り返し練習を続けていくことで徐々に子ども達全員が同じ目的に向かって歩み始め、自ら劇やお遊戯の練習に取り組み姿が見受けられるようになりました。発表会に向けたこの過程も、また一つ子ども達の成長を大きく感じさせる場面でした。

そして待ちに待った生活発表会当日、保護者の協力もいただきながら子ども達の髪形



を整え、保育士手作りの衣裳に着替えると子ども達のやる気もますます高揚し、堂々とした姿で舞台上に立っている姿にとっても感動しました。発表会を終えた子ども達は、達成感に溢れ、ホッとしました表情を見せていました。今回の生活発表会を通じて、子ども達が目標に向かって努力し、成長していく姿を間近で見られたことにとっても感動しました。さらに、保護者の皆様から温かい言葉や声援をいただき、保育士として自信に繋がった発表会になりました。

保育士 千代森 葵

鹿児島市南部親子つどいの広場
子育て支援に携わって

「こんにちは。」
「今日も遊びに来ました。」
「今日は何のイベントですか？」

鹿児島市南部親子つどいの広場は、毎日、親子の元気な声で賑やかです。
私が子育て支援に携わるようになって、もうすぐ二年になります。今年、トイレトレーニングの講座をさせていただきました。最初は、正直不安でいっぱいでしたが、自分も一人の母親としての経験を活かし、また、子育て中の友人達にも、たくさんの協力ももらいながら講座の準備を進めていきました。



「白湯ってどこに売ってありますか？」
「おしっこの間隔ってどうやって計るのですか？」
「トイレに行くのを嫌がるのですが...。」

子育てが初めての母親はわからないことがたくさんあります。講座を進める中で、子育て中の母親は全てが手探り状態であり、子どもの姿一つひとつが、喜びや不安になることを感じました。
広場で母親達と話をする時、私が子育てをしていることを知ると、

「こんなときはどうしていいですか。」
等、質問を受けることがあります。母親達が小さな疑問を解決することで安心し、この場に来て話すだけでホッとしている様子を見ると、この場所が、母親達にとってとても大切な場所であるのだと感じます。

支援をするうえで必要なことは、自分の考えを一方的に押し付けるのではなく、一人ひとりの母親に寄り添い、その思いを傾聴し、共感していくことだと思えます。子育て支援をしながら、親の育ちも支援していかなければと気付きました。

これからも、親子つどいの広場が親子で楽しく安心して過ごせるよう、また母親達の憩いの場となるように頑張っていきたいと思えます。
保育士 湯元 利恵

母子生活支援施設 菊花寮

「さよなら菊花寮ふれあいパーキョー大会」

八月十一日、菊花寮の全面改築工事を前に寮庭で、ふれあいパーベキョー大会を開催しました。

在寮者の方はもちろんのこと、地域在住の退寮者の方や、日頃お世話になっている町内会長さん、学校の先生方にもお越しいただき、盛大に行われました。
綺麗な夕焼け空、色とりど



また、バーベキューだけではなく、かき氷を準備し、出店風に配りました。子ども達はお友達と味比べをしながら、かき氷を食べており、たくさん笑顔を見ることができました。また、退寮者の方々が、涙を流しながら菊花寮での思い出を語り合い、「ここが私の部屋だった」など菊花寮の建



りの提灯の下、バーベキューコンロを囲み、たくさんのお肉や魚介、野菜を焼き、和気あいあいと食事を楽しみました。中には、うまく火が起これず悪戦苦闘するグループもありましたが、隣のグループの協力で火を起こせたり、子ども達もうちわを仰いだりと一生懸命お手伝いをしていました。

また、バーベキューだけではなく、かき氷を準備し、出店風に配りました。子ども達はお友達と味比べをしながら、かき氷を食べており、たくさん笑顔を見ることができました。また、退寮者の方々が、涙を流しながら菊花寮での思い出を語り合い、「ここが私の部屋だった」など菊花寮の建

物を懐かしむ姿や、在寮者との交流を楽しまれている様子を見て、菊花寮の歴史や思いを感じることで、交流会を開催して本当によかったと改めて感じました。最後は、退寮者の方に挨拶をして頂き、菊花寮への感謝の気持ちと、過去や今がたらくても、必ず明るい未来が待っていると在寮者の方に対する心強いエールを頂きました。

このふれあいバーベキュー大会を機に、職員は職務に対する責任を改めて再確認しました。また、退寮者の方からの温かいエールは、在寮者の方にとって今後の明るい未来へと繋がる大きな励みになったのではと思います。母子支援員 野村 知代

**障害者支援施設 ゆすの里
小学生を対象に「ものづくり講座」**

障害者支援施設ゆすの里では、地域に愛され、地域に開かれた施設でありたいという思いから、月一回、無料開放講座を開催しています。十一月は、三十名の小学生がクリスマスリースづくりに挑戦しました。

楽しい雰囲気の中、それぞれ工夫を凝らした世界にひとつだけのクリスマスリースを作ることができ、一足早いクリスマスプレゼントになったのではないのでしょうか。六月の「エコスポンジづくり」の時もそうでしたが、今回も、楽しかったという子ども達が大半でした。ものづくりの楽しさを伝え

クリスマスリースは円をかたどっていることから「はじめも終わりもなく、永遠に続く神の愛」という意味合いが込められているそうです。講師の作業療法士もクリスマスリースづくりは初めてで、子ども達からいろいろと教えられる場面もありました。

- 五月……リハビリ体操
- 六月……エコスポンジづくり
- 七月……ミニ健康診断
- 八月……若さを保つ食生活
- 九月……ストレス解消法
- 十月……腰痛体操
- 十一月……手作りで楽しむクリスマス
- 十二月……この冬を健康ですごすために

これができたのではないかと思います。これからも、みなさまに楽しんでいただけるよう努めてまいりますので、お誘い合わせの上、無料開放講座にお越しください。理学療法士兼支援員 田中 智博



養護老人ホーム 慈眼寺寿光園

「きれいなコスモス」

「今日のデイは遠足ですよ。慈眼寺公園にコスモスを見に行きましょう。」

「俺はそんなに暇じゃないんだけどなあ。」

と気のない返事のIさん。「そんな事言わずに一緒に出かけましょう。」と集合時間を伝え玄関先で待つことにしました。もしかしたら来てくれないかもしれない、ふとそんな事が頭をよぎった時、Iさんがこちらに歩いてくるのが見えました。帽子をかぶり左肩にはカーディガンを掛け、外出用のお洒落をして準備万端でした。

車に乗り込み、いざ公園へ。到着すると眼下に広がる



満開のコスモス、秋晴れの空のもと時折吹き抜ける心地よい風、今年もこんな景色に迎えられる、Iさんの口から

「来た・・・。」

と一言。穏やかな笑顔を浮かべ、懐かしんでいらつしやるようでした。職員から「来年もまた行きましょうね。」と声をかけられ、照れた笑顔で「おう。」と一言だけ返事をされたIさん。またこのコスモスに会いに行けるように来年も元気でいてくださいね。

生活相談員 山田 文香

ほくさつ障害者就業・生活支援センター

タイムシェアinほくさつ

当センターでは、利用者同士が交流し、職場定着を促進

することを目的として、年に四回交流会を行っています。

交流会の名称は参加者で話し合い『タイムシェアinほくさつ』と名づけました。この名前には参加者が悩みを分かち合い、楽しい時間を共有し、明日からの仕事をがんばることができるようという思いが込められています。そんな思いが込められたこの交流会は段々と参加者も増え、毎回たくさんの笑顔があふれる会となってきました。

十月二十五日、さわやかな秋晴れの下、今年度二回目のタイムシェアinほくさつを開催しました。今回は参加者からの要望が多かったグラウンドゴルフ大会を開催したところ、十六名の参加がありました。みなさん職場で見られる真面目な姿とは全く違い、大



はしゃぎで楽しんでいました。その後の懇談会でも笑い声が絶えず、時間を忘れて語り合いました。みんなリフレッシュできたようで「次は職場でね。」と声をかけると「がんばります。」と元気に帰って行かれました。

職員の顔を見るとみんな「次何するの?」「次いつするの?」と聞いてくれます。この取組みが広がり、センターが利用者にとって、より身近なものになってきているのではないかと感じます。今後も利用者同士がたくさんの仲間を作り、センターが気軽に相談できる場所となるよう、魅力的なタイムシェアinほくさつを企画したいと思います。

支援員 中嶋 憲一



完成予想図（この建物の1階部分になります）

高次脳機能障害のある方を 支援します！！

障害福祉サービス事業「リハステーションゆす」

当事業団では、平成28年4月に障害福祉サービス事業「リハステーションゆす」を開設する予定であります。本事業は、高次脳機能障害のある方を主たる対象として、作業療法士、心理判定員などの職員を中心に、様々なリハビリ訓練を行います。

現在、利用申込みの予約受付中ですので気軽にご相談下さい！！

●主な利用対象者

障害支援区分が区分3以上の方（50歳以上の方は区分2以上）

●利用定員

1日の利用定員 20名

●所在地

鹿児島市錦江町3番7号

●その他

送迎サービス、入浴サービス、給食サービスなど

お問い合わせ先
(利用申込み予約受付先)

障害者支援施設
ゆすの里

担当 押越

TEL 099-273-4175

FAX 099-273-4177

報 告

平成二十七年五月二十八日までの理事会及び評議員会は、次のとおり開催され議案については、審議のうえすべて決定されました。

理事会

- 平成二十七年五月二十八日
- 議案第一号 平成二十六年事業報告(案) について
- 議案第二号 平成二十六年決算(案) について
- 議案第三号 鹿児島県社会福祉事業団基本理念の制定(案) について
- 議案第四号 評議員の委嘱(案) について
- 議案第五号 入居施設全面改築及び通所リハビリテーション事業所新築工事請負契約に係る入札(案) について
- 議案第六号 基本財産の処分(案) について
- 平成二十七年八月三十一日
- 議案第一号 通所リハビリ施設及び入居施設新築工事請負契約(案) について
- 議案第二号 菊花寮全面改築工事請負契約に係る入札(案) について
- 議案第三号 評議員の委嘱(案) について
- 平成二十七年十一月二十五日
- 議案第一号 共同生活援助 川内ひまわりホームの定員変更(案) について
- 議案第二号 入居施設の名称変更及び通所リハビリ施設の名称決定(案) について
- 議案第三号 鹿児島県社会福祉事業団経理規程の一部改正(案) について
- 議案第四号 平成二十七年事業計画の変更(案) について
- 議案第五号 平成二十七年第一次収入支出補正予算(案) について

評議員会

- 平成二十七年五月二十五日
- 議案第一号 平成二十六年事業報告(案) について
- 議案第二号 平成二十六年決算(案) について
- 議案第三号 鹿児島県社会福祉事業団基本理念の制定(案) について
- 議案第四号 基本財産の処分(案) について
- 平成二十七年十一月二十日
- 議案第一号 共同生活援助 川内ひまわりホームの定員変更(案) について
- 議案第二号 入居施設の名称変更及び通所リハビリ施設の名称決定(案) について
- 議案第三号 平成二十七年事業計画の変更(案) について
- 議案第四号 平成二十七年第一次収入支出補正予算(案) について

事業団全体研修

- 平成二十七年六月三十日(第一班)
- 平成二十七年七月十七日(第二班)
- (研修内容)
- 一 理事長訓話
- 二 「誰もが幸せに生きるために」 県人権同和対策課 研修専門員 鎌田 豊作 氏(第一班) 前田 隆幸 氏(第二班)
- 三 「美しい日本の歌」 特定非営利活動法人 かごしまアートネットワーク ソプラノ歌手 平田 由希 氏

ピアノ奏者 上野くらら 氏
「いのちの輝き」今、ここにいるだけで素晴らしい」
南九州市教育委員会 教育長 中村 洋志 氏

階層別研修

- ・新任職員研修
- 平成二十七年五月十九日
- (研修内容)
- 一 理事長訓話
- 二 ビジネスマナー理解度テスト
- 三 半年後の自分へ
- 四 特別講義「鹿児島県社会福祉事業団の歴史」 若葉学園 副園長 徳永 千早
- 平成二十七年五月二十日
- (研修内容)
- 一 施設見学
- ・施設長研修
- 平成二十七年八月二十一日
- (研修内容)
- 一 理事長訓話
- 二 財務分析
- 三 人事考課制度勉強会兼評価書運用勉強会
- ・課長等研修
- 平成二十七年十月一日
- (研修内容)
- 一 理事長訓話
- 二 事業団の基本理念
- 三 施設別研修の報告
- 四 課長等に求められる役割
- ・主査研修
- 平成二十七年十一月五日(第一班)
- 平成二十七年十二月八日(第二班)
- (研修内容)
- 一 理事長訓話
- 二 事業団の基本理念
- 三 主査の役割
- 四 施設別研修報告・演習他
- 五 特別講義「川内自興園の事業展開に

ついて」
川内自興園 副園長 山本 耕一(第一班) 「南部親子つどいの広場の事業概要」 南部親子つどいの広場 館長 岩崎 里美(第二班)

経験者研修

- 平成二十七年十一月二十五日(第一班)
- 平成二十七年十二月七日(第二班)
- (研修内容)
- 一 理事長訓話
- 二 事業団の基本理念
- 三 演習(施設別研修より)
- 四 モラルサーベイ結果報告他
- 五 中堅職員に求められるスキル
- 六 特別講義「こころの健康を保つために」 ゆすの里 主査看護師 井上 眞理子(第一班) 「地域子育て支援センターの果たす役割」 同胞保育園 主査保育士 吉元 至子(第二班)

契約職員研修

- 平成二十七年八月二十日・九月七日・八日(前半)
- 平成二十七年十月二十日・十一月四日・二十四日(後半)
- (研修内容)
- 一 事業団の基本理念
- 二 合意形成グループワーク
- ・専門研修1(前期)
- 平成二十七年十月十九日
- (研修内容)
- 一 経営意識の確立
- ・専門研修2(前期)
- 平成二十七年十月十九日
- (研修内容)
- 一 人事考課制度勉強会等

環黄海青少年派遣事業

環黄海青少年派遣事業に参加して

私は、鹿児島県が実施する同事業に当事業団より参加させていただきました。県内の様々な業種の方と台湾の最大の都市圏である台北市へ三泊四日の日程で参加し、現地企業への訪問や現地で活躍している同世代の方との交流の機会を得ることができました。

私は、台北市内の福祉施設を見学しましたが、ここでは、約四百名の利用者の方が生活されているらしいと思いました。現地の職員の方からは、「現在、台湾では高齢化が急速に進んでおり、今後このような福祉施設の整備が重要な課題である。」とのお話をいただき、これから台湾の福祉環境がますます発展して欲しいと感じました。また、施設内には、利用者の方が描かれた絵画が至る所に展示されており、利用者の方の充実した生



活が垣間見えたことが印象に残っています。

現地の方との意見交換会では、普段の仕事に対する熱意や、考え方など様々な意見交換を通じ、物事を広い視点で捉えることが大切であると感じました。今回の研修では、現地の方との交流だけでなく、県内の同世代の様々な業種の方との交流も図ることができ、お互いが良い刺激となるとともに、自分自身を見つめ直す良い機会になったと思います。今後も、この出会いを大切にし、お互いが切磋琢磨しあえるような関係性を保っていきたいと思います。



最後に、現地でしか感じることのできない世界観を直接肌で感じる事ができとても貴重な体験ができたと思います。この研修で得られた多くのことを今後に活かしていければと思います。大変貴重な研修に参加させていただきありがとうございます。

事務局 岩元 公典

環黄海青少年派遣事業に参加して

今回、鹿児島県が実施する同事業に当事業団より参加させていただきました。県内の様々な業種の方、学生の方と一緒に韓国首都であるソウル特別市へ三泊四日の日程で参加し、現地企業への訪問や現地で活躍している同世代の方と交流の機会を得ることができました。

私たちの班では、現地企業の視察として障害者福祉館に訪問させていただきました。児童から高齢者までの障害を持った方々が、自立への支援を受けることができる通所の施設でした。職員の方より、「福祉館では支援内容が二百プログラムあり、障害者のニーズに合わせて、サービスを行っている。」との説明でした。個人に合わせた支



援の取組みへの意識の高さを感じることができました。また、施設を見学させていただいた際に、職員の方が利用者の方へ笑顔で優しく声掛けをされ、利用

者の方が生き生きとして過ごしていたことが、印象に残っており、個人に合わせた支援が行われているのだと改めて感じることができました。

現地の方のみならず、県内の同世代の方と様々な交流が図れ、仕事に対する熱意や意識の高さを感じる事ができ、良い刺激をもらいました。今後もこの出会いや交流を大切にしていきたいと思いました。

この事業で得られた多くの知識や経験を今後活かしていきたいように努力していきたいと思えます。素晴らしい研修に参加させていただきありがとうございます。

若葉学園 山之内 航



シリーズ 女ひと



仁風学園 児童指導課長 中村 春代さん

今回は、仁風学園の中村児童指導課長にお話を伺いました。

Q: 事業団で一番の思い出は何ですか？

A: 最初の赴任先が川内自興園で、独身の職員の皆さんと寮生活を送っていました。その当時の授産に養豚班があり、子豚の出産後の授乳のため、寮に住んでいた職員は夜中一時間おきに豚舎へ行っていました。

また、製帽班に配属され工業用ミシンで表わら帽子を製縫し、プレス機にかけてお店に卸していたりもしました。なかなか工業用ミシンで表わら帽子が作れず、不器用な自分には涙したものでした。他には自転車組立班、大島紬班、ブロック班、農業班、竹刀班、竹細工班もあり、その当時を知る現役の職員も今では私を含め四人だけになり

ましたねえ。今では懐かしい思い出です。
Q: 仁風学園で勤務されて、どんな時にやりがいを感じますか？

A: いろんな事情を抱え二歳から施設に入所した子が成長し、恋人や家族を連れ戻りして学園に遊びに来た時「立派になって。」と思うのと同時に、当時の頃が思い出されます。母親的な気持ちですね。「良かった。立派な社会人になって。」と嬉しく思います。また、県外の卒園生と会って立派な姿を見ると、この仕事をしています。

Q: 後輩へメッセージをお願いします。

A: 縁あって福祉の仕事に携わってきていますが、退職された先輩がよく言っていた言葉があります。「福祉は人なり」。人あつての仕事だと思っています。

相手の立場を思えばこそ、自然に手を差し伸べることができると思います。

いつも優しい笑顔の中村児童指導課長。貴重なお話をいただき、ありがとうございます。今後の参考にさせていただきます。

インタビュー

仁風学園 田中 みな実

おめでとう

表彰

平成27年秋の叙勲受章



川邊 裕樹（錦江寮）

川邊裕樹寮長が、秋の叙勲で瑞宝単光章を受章されました。

川邊寮長は、昭和五十三年の入職以来、児童養護施設の児童指導員や、障害者支援施設の支援業務に従事されてこられました。長年にわたり尽力された功績が認められ、今回の受章に至りました。

常に利用者の立場に立った支援を行い、利用者の個々のニーズに応じた支援に積極的に取り組まれる川邊寮長がこのような名誉ある章を受章されることは、事業団職員にとって日々の業務に従事していくなかで大変励みになることです。本当におめでとうございませう。



厚生労働大臣表彰

市来より子（同胞保育園）

鹿児島県知事表彰

平田かよみ（慈眼寺寿光園）

鹿児島市社会福祉功労者表彰

中原 君子

（鹿児島みなみ保育園）

全国社会福祉協議会会長表彰

平田かよみ（慈眼寺寿光園）

鹿児島県社会福祉協議会会長表彰

松林 大生（事務局）

岩崎 里美

（鹿児島みなみ保育園・南部親子つどいの広場）

祝 飛翔第五十号

当事業団が年二回発行している機関紙「飛翔」もおかげさまで今回、第五十号の発行を迎えることができました。

この機関紙「飛翔」は、平成七年一月一日に第一号が発行されて以来、二十一年間続くものであります。これからも引き続き当事業団が取り組んでいる事業や、各施設の動向及び行事などの情報を皆様にお届けするための充実した内容の機関紙となるよう努力してまいりたいと考えておりますので、関係の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。